

全国精神衛生連絡協議会

# 会報

昭和57年8月

再刊3号

## 目 次

- 1 巻頭言  
第30回精神衛生全国大会について(大会実行委員会会長、北海道精神衛生協会会長  
岡本康夫) ..... 2
- 2 世界の動きから  
WHOの精神障害診断・分類会議の概要(加藤正明) ..... 2
- 3 国内の動きから  
全国精神衛生主管課長会議の緊急開催 ..... 3
- 4 統計から  
統計推移からみた精神科医療需給の変化 ..... 4
- 5 研修だより  
アルコール中毒臨床医等研修 ..... 5
- 6 昭和57年度精神衛生関係予算の概算 ..... 6



## 1 第30回精神衛生全国大会について

昭和57年10月15日に北海道札幌市に於て第30回精神衛生全国大会が開催されることになり、目下大わらわに準備を進めています。昭和41年(1966)に第14回大会を札幌市に開いて以来北海道では2度目で、16年振りとなります。開催地である北海道と札幌市及び周辺都市は勿論地元一般の期待と関心が高まりつつあります。

大会テーマは昭和54年の大阪大会以来神奈川県福岡県が共に「今こそ心の健康を」としておられましたので、これをそのまま引きつぎました。大会の内容も表彰式・記念講演・シンポジウムと従来の型式を踏襲したものととなります。内容で何か北海道的特色をもたせようとの委員会の意見でその点に意を用いています。

記念講演は渡辺淳一氏に決定しました。同氏は札幌医科大学出身の医師で後に作家に転向され、多数の小説を発表されていることは御存知の通り

## 2 世界の動きから

去る4月13日～17日に、コーペンハーゲンで開かれたWHOとアメリカのADAMHA(アルコール・薬物乱用および精神衛生管理)との協同主催による会議の概要を報告したい。日本からの出席は土居健郎、高橋良、加藤正明の3名で、世界各国から117名が招へいされ、そのほかに24名のオブザーバーと約30名の事務局側出席という精神衛生に関する限りWHO始って以来の大きな集会であった。

会議の前日に「アルコール・薬物乱用に関連する諸問題」の会合が持たれ、28人が呼ばれ筆者も加わったが、ここではWHOの従来の活動報告が主体であった。午前の総会議事は10題あり、2日

岡本康夫

ですが、未だ北海道在住のお若い頃精神衛生大会のシンポジストにお願いしたこともあり、この方面に関心のおありの方です。

シンポジウムは「“大志を抱け”と現代」と題して行い度いと鋭意人選中です。「ボーイズ・ビー・アンビシャス」なるクラーク先生の言葉は札幌農学校出身の明治の青年の魂をゆり動かし、これが北海道の開拓に、又日本の近代化に大きく貢献しました。今はこれも薄れ知らない世代が増加したのは自然のなり行きでしょうが、改めてこれを取り上げて発展的で健康な精神の有用性と尊さを強調致したいと思っています。本来の精神衛生の目的にそうものでありましょう。

10月は北海道の最もよい季節の中に入ります。土地の方はいうまでもありませんが遠方からお出での方々を双手を挙げて歓迎致し度いと存じます。(大会実行委員会会長、北海道精神衛生協会会長)

目の「普遍的で有効な病因による分類のための戦略」では、筆者が座長でイギリスのJ. K. ウィングが総説を行った。アメリカのロビンズ、オランダのブルティンガー、オーストラリアのヘンダソンが各国の現状報告を行い、フロアからの討議があった。ウィングは病院ケアと地域ケアにおける患者の流れとその診断について、精神医学診断評価スケールPSEその他を用いて統計的結果を発表した。他の演者もおおのの国における診断評価について述べたが、フロアからとくにデイケアにおける施設症などの質問があった。その他の議事のうち「生物学的研究からの分類」ではアメリカのケティが、すぐれた総合を行い「比較文化的立場による分類」では、カナダのマフィーが

展望を発表した。

ワークショップは次の8課題について、4日間の午後に別れて行われた。

- 1 児童・思春期の精神障害(司会シャラン、報告者ラッター)
- 2 老年期の精神衛生(司会サドゥン、報告者B. クーパー、加藤が参加)
- 3 プライマリ・ヘルスケアにおける発生率の高い精神障害(司会ギール、報告者ゴールドバーグ)
- 4 薬物・アルコール乱用(司会ヒュドリン、報告者ヤッフエ、エドワード)
- 5 人格と人格障害(司会土居、報告者シュレジンガー)
- 6 器質脳障害(司会オサントクン、報告者リビウスキー)
- 7 機能精神病とスペクトラム障害(司会グーゼ、報告者シュレジンガー、高橋参加)
- 8 ヘルスケア全般における社会心理的観点(司会クリメント、報告者J. E. クーパー)

以上の詳細については別に報告したいが、とくに筆者の参加した老年期の精神衛生について要約

## 3 国内の動きから

### 全国精神衛生主管課長会議の緊急開催

以下の目的、内容で全国精神衛生主管課長会議が開催された。

1. 開催日時、場所  
昭和57年7月30日 午後1時～同5時  
於 厚生省講堂
2. 会議の目的  
1) 最近精神害者によるとみられる犯罪が続発しており、新聞報道等において精神医療の改善について指摘されていることから、本会議を通じて、現在の精神衛生施策の総点検を行うこと。

すると、次のごとくである。

アルツハイマー型痴呆と脳血管型痴呆との鑑別、器質障害と機能障害とくにうつ状態との区別、老年精神障害における多軸診断、国際比較研究の必要性などであった。ことに最後の国際比較については、本会終了後1日を設けてこれについて討議した。この研究グループは、パロ(ベルギー)、バトラー(アメリカ)、グルエンパーク(アメリカ)、ヘンダソン(オーストラリア)、加藤(日本)、ミラー(アメリカ)、ムンク・ピータソン(デンマーク)、ポルスマン(デンマーク)から成り、2つの計画を討議した。その1つは同一方法を用いて老年精神障害の疫学研究を行うことであり、他はスロー・バイラスの影響、自己免疫、遺伝学的研究、脳代謝研究などの神経科学的研究について比較研究を行うことであった。

限られた紙数もつきたが、要するに今回のWHO会議は、来るべき第10回ICDのための準備会議であり、国際比較研究の必要性和多軸診断の可能性が、精神医学のあらゆる領域において論ぜられたといつてよいと思われる。(加藤正明)

- 2) 精神衛生対策の直接の目的が、精神障害者による犯罪の防止ではないにしても、精神衛生行政を遂行していく上で、その不備が指摘されることのないよう、施策の充実を図ること。
3. 会議の内容  
公衆衛生局長より、公衆衛生施策における精神衛生対策の優先性の向上を図ることを内容とするあいさつがあり、緊急に招集された本会議の趣旨、及び当面の精神衛生対策の基本的方向について指示がなされた。



その後、精神衛生課長より、

- (1) 精神衛生に関する啓発、普及運動の充実
- (2) 精神医療体制の充実
- (3) 精神衛生鑑定医制度の運用
- (4) 精神障害者の人権の確保
- (5) 措置入院制度の運用
- (6) 同意入院制度の運用
- (7) アフターケアの充実

## 4 統計から

### 統計推移からみた精神科医療需給の変化

#### 1) 人口10万対(新・再)入院数の年次推移から

～全精神障害～

全 国	人口10万対	昭和	35年	40年	45年	50年	55年
		30年	68	117	161	197	191
埼玉+神奈川	〃	74	139	147	163	128	123
四国+九州	〃	68	128	208	242	261	250

(厚生省病院報告より)

全国的にみてその年の新・再入院延件数は表にみられるように対人口比では減少傾向にあり、比較的病床数の多い四国・九州(人口約1710万人)でも同様であるように思われる。また、1960年代から人口の急増が著しく病床数が比較的少ない埼玉・神奈川2県(人口約1230万人)では、昭和50、55年とも昭和35年のレベルより下っている。

#### 2) 年齢階層別人口10万対在院患者推計数の推移から

在院患者の過半を占める分裂病で24歳以下の在

(分裂病)

～24 25～34 35～44 45～54 55～64 65～

昭和	44	54	57	224	321	303	234	145	43
112	278	291	234	145	43	54	57	224	321

(厚生省患者調査より)

#### (8) 中毒性精神障害者対策

等の諸点について適切な運用及び施策の充実を図るよう指示が行われた。

また、薬務局麻薬課長より、特に麻薬・覚せい剤犯罪の概況について説明が行われ、各県の課長から上記事項に関連した質疑討論が活発に行われた。

院患者が10年前のほぼ50%に減り、25～34歳でも減少している。全精神障害でも大体似た傾向であるが老年性精神障害の在院が増えるために65歳以上の件数は当然増加している。これらの数値は、若年層の(新・再)入院の減少と老年性精神障害の入院の増加がかなり顕著に起きていることを示している。

わが国では精神科医療の現状を把握するための基礎的な業務統計が先進国に比べて未整備であり、入(退)院届なども分析のために十分に活用されていないきらいがあるが、今あげた統計推移は精神科医療がむずかしい局面に立っていることを示しており、国レベル、都道府県レベルそれぞれの資料収集、分析、将来予測の方法の樹立をうながしている。

(全精神障害)

～24 25～34 35～44 45～54 55～64 65～

昭和	34	44	54	57	224	321	303	234	145	43
102	231	207	153	111	68	44	166	344	371	327
95	295	416	416	363	318	54	95	295	416	416

(厚生省患者調査より)

## 5 研修だより

### ・アルコール中毒臨床医等研修

研修期間(昭和57年度)

コース名	第1回	第2回**
医師コース	5月10日(月) ～5月15日(土) 13人*	9月27日(月) ～10月2日(土)
保健婦コース	5月17日(月) ～5月22日(土) 20人*	10月4日(月) ～10月9日(土)
看護婦コース	5月24日(月) ～5月29日(土) 16人*	10月18日(月) ～10月23日(土)
PSW等コース	5月31日(月) ～6月5日(土) 16人*	10月25日(月) ～10月30日(土)

\*受講者数

\*\*第2回の申込期限は本年度は7月24日(第1回は4月10日)

(参考) アルコール中毒臨床医等研修実施要綱

#### 1 研修の目的

アルコール中毒等の疾病の増加傾向にかんがみ、アルコール中毒者等の医療、看護及び保健指導に当る医師、保健婦、看護婦(士)及びPSW等に対して、アルコール中毒等に関する専門的な知識及び技術の研修を行い、酒害予防対策の充実に資することを目的とする。

#### 2 研修コース

研修のコースは、医師コース、保健婦コース、看護婦(士)コース及びPSW等コースとし、研修内容の細目は、別紙のとおりとする。

#### 3 研修期間

研修の期間は、各コース6日間とし、実施時期は、別紙のとおりとする。

#### 4 研修定員

研修定員は、各コース、1回ごとに20名以内とする。

#### 5 受講資格

研修を受けることができる者は、次の各号に該当する者とする。

##### (1) 医師コース

精神病院、精神衛生センター及び保健所等において、アルコール中毒者等の医療及び保健指導に従事する医師

##### (2) 保健婦コース

精神衛生センター及び保健所等においてアルコール中毒者等の保健指導に従事する保健婦

##### (3) 看護婦(士)コース

精神病院等において、アルコール中毒者等に対する療養上の世話又は診療の補助に従事する看護婦(士)及び准看護婦(士)

ただし、准看護婦(士)は3ヶ年以上の経験を有するもの。

##### (4) PSW等コース

精神病院、保健所、精神衛生センター及び福祉事務所等においてアルコール中毒者等の相談、指導に従事する精神科ソーシャルワーカー、社会福祉主事等

#### 6 研修場所

研修場所は、国立療養所久里浜病院(神奈川県横須賀市野比2769)とする。

#### 7 受講者の推せん

都道府県は、管下関係機関から受講希望者を募り選考のうえ、受講申込書(別紙様式1)に次の書類を添付して、厚生省公衆衛生局長あて提出するものとする。

- (1) 所属長推せん書(別紙様式2)
- (2) 履歴書

#### 8 受講者の決定

各都道府県から推せんされた者の中から厚生省公衆衛生局において決定し、各都道府県あて通知するものとする。

#### 9 修了証書の授与

研修を修了した者は、修了証書を授与する。

#### 10 経費

受講料は無料とするが、受講地への旅費及び滞在費等については、受講者負担とする。

#### 11 その他

##### (1) 宿泊施設

研修期間中は原則として受講者全員が次の施設に宿泊するものとする。

国立療養所久里浜病院研修宿舎

住所 神奈川県横須賀市野比2769

電話 0468-48-1550

##### (2) 研修についての照会先

厚生省公衆衛生局精神衛生課

住所 千代田区霞が関1-2-2

電話 03-503-1711



## 6 昭和57年度精神衛生関係予算の概算

昭和57年度精神衛生関係予算については、767億8,584万円で対前年度比は98.3%とやや落ち込んでいるが、通院患者リハビリテーション費と保健所における老人保健推進事業費が新規として予算計上されている。

以下主な精神衛生関係の予算について項目別に説明を加える。

### (1) 精神衛生費等補助金

76,592,386千円 (77,954,467千円)

精神衛生費等補助金は、主として①都道府県知事が講じた入院措置（法第29条）と緊急入院措置（法第29条の2）の対象となった患者の医療費（患者の護送費を含む。）に対する国の一部負担（%補助）。②通院医療（法第32条）に要する経費で、都道府県の公費負担に対する国の一部負担（1/2補助）。③沖縄県のみ適用される「沖縄の復帰に伴う厚生省関係法令の適用の特別措置等に関する政令」第3条の規定による、同意入院及び通院医療の本人負担分の全額公費負担の特別措置などに対する必要な経費（%・1/2補助）。④都道府県が精神衛生関係法令に基づいて行う機関委任事務や、団体委任事務の執行等に必要経費（1/2補助）。⑤精神衛生センター、精神障害回復者社会復帰施設、デイケア施設、精神衛生社会生活適応施設（以上「精神衛生センター等」という。）の運営に要する経費（1/2・1/2補助）。⑥57年度において新規計上された、通院患者リハビリテーション事業費（15,125千円）で、通院患者に対する医学的リハビリテーションの一環として、医療機関以外の場で通常の通院医療（カウンセリング等）と併せて、仕事に対する持久力、適応能力、集中力、対人能力等の涵養を図り、精神障害回復者の再発防止と社会的自立を促進するための経費として都道府県に補助する経費（補助率：1/2、実施対象：9県、対象者数：144

人、補助内容：事業主に対する協力奨励金として1人1日2,000円の支給と事業の運営に要する経費。）などである。

### (2) 保健所運営費補助金（精神衛生対策費）

174,250千円 (147,774千円)

保健所運営費補助金は、保健所において地域精神衛生諸活動を実施するための経費で、関係諸機関・施設等との緊密な連絡協調のもとに精神障害者の早期発見、早期治療の促進をはかり、その社会適応を援助するため、相談及び訪問指導を積極的に行うと共に、地域住民の精神的健康の保持向上を図るための諸活動を実施するのに必要な経費と、57年度より老人保健対策の一環として新たに予算化された、老人保健推進事業費（20,058千円）からなる。後者は、近時、高齢化社会の到来に伴い、老人の痴呆疾患の多発が予想されることにかんがみ、その予防対策の一環として本年度より保健所において精神科医、精神衛生相談員等による老人やその家族に対する精神衛生教育、健康相談事業、訪問指導事業等を行うために必要な経費である。（補助先：都道府県・保健所設置市（区）、補助率： $\frac{33.5}{100}$ 、実施保健所数：47保健所、精神衛生相談員新規配置：19名、事業内容：家族に対する衛生教育、健康相談、訪問指導など。）

### (3) 精神病院等施設・設備費補助金

1,300,000千円 (1,080,212千円)

この経費は、精神病院、精神衛生センター等の施設整備並びに施設整備の新設及び増設に伴う初度設備整備に必要な経費である。（注：昭和53年度より保健衛生施設（設備）整備費補助金に統合メニュー化された。予算額内訳なし。参考までに56年度予算額は実績で示し、57年度予算は予算枠を計上した。）

## 精神衛生関係予算

(単位 千円)

事 項	56年度予算	57年度予算	事 項	56年度予算	57年度予算
1. 精神衛生費等補助金	77,954,467	76,592,386	㊦オ. 通院患者リハビリテーション費	—	15,125
(1) 措置入院費	70,172,641	67,793,539	カ. 精神衛生国際セミナー開催費	9,500	0
(2) 通院医療費	6,118,051	7,093,596	2. 保健所運営費補助金	—	174,250
(3) 同意入院費	1,117,707	1,159,824	(1) 精神衛生対策費	147,774	154,192
(4) 医療費公費負担等事務費	165,646	170,038	㊦(2) 老人保健推進事業費	—	20,058
(5) 精神衛生センター等運営費	380,422	375,389	3. 精神病院等施設・設備整備費補助金	1,080,213	(1,300,000)
ア. 精神衛生センター運営費	222,615	242,705	(1) 精神病院	—	—
イ. 精神障害回復者社会復帰施設運営費	62,288	49,799	(2) 精神衛生センター	—	—
ウ. デイケア施設運営費	49,801	29,889	(3) デイケア施設	—	—
エ. 精神衛生社会生活適応施設運営費	36,218	37,871	(4) 精神障害回復者社会復帰施設	—	—
			(5) 精神衛生社会生活適応施設	—	—
			計	79,182,454	76,766,636*

\* (本省事務費、優生保護費を除く)

### 第30回 精神衛生全国大会

開催期日 昭和57年10月15日(金)

会 場 札幌市民会館

札幌市中央区北1条西1丁目

TEL: 011-241-9171

### 全国精神衛生連絡協議会理事会及び総会

日 時 昭和57年10月14日(木)

時 間 理事会 1 P. M. ~ 2 P. M.

総 会 2 P. M. ~

場 所 札幌市中央区北一条西六丁目

北海道会館

TEL: 011-261-5311



